



2018 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (2018 SUPER FORMULA) 第 6 戦: 岡山国際サーキット (岡山県美作市) レース報告書

予選: 9 月 8 日 (土)

天候	雨
観客動員数	5,400 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 14 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 15 位

決勝: 9 月 9 日 (日)

天候	雨
観客動員数	8,000 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 13 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 14 位

<予選レポート>

今シーズンも残り 2 戦となった SUPER FORMULA。第 6 戦は岡山国際サーキットで開催されました。この週末は雨の予報が出され、予選日も朝から生憎の雨に見舞われました。雨が降ったり止んだりを繰り返すウエットコンディションで 9 時 45 分からフリー走行が行われ、予選に向けて確認作業を行なわれました。公式予選はウエット宣言が出されましたが、雨が止んだ状況で行われました。

まずは Q1。TCS NAKAJIMA RACING の 2 台は、スタートと同時にコースインをして、ウエットタイヤを入念に温めていきます。しかし、開始から 4 分が経過した頃、他チームの 2 台がコースアウトしたため赤旗が提示されます。車両の回収後、Q1 は再開され、ナレイン・カーティケヤン 選手 (64 号車) は 13 番手で Q2 へ進出を決めますが、伊沢拓也 選手 (65 号車) は 15 番手となり、ここで予選を終えます。

今にも雨が降り出しそうな分厚い雲に覆われた天候のもと、Q2 がスタートします。カーティケヤン 選手は、ウエットのニュータイヤでコースインをしましたが、エンジントラブルが発生し、そのままピットに戻ります。再度コースインをしたものの、トラブルは解消せず、結局、タイムアタックできないまま 14 番手で予選を終えました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「伊沢はフリー走行から大きくマシンのバランスが変わってしまい Q1 敗退、カーティケヤンはエンジントラブルで Q2 のアタックができず、たいへん残念な予選になってしまいました。明日も不安定な天候になりそうですが、できる限り準備をして決勝に臨みます」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“Today our car was good, but the qualifying session was in bad condition. Unfortunately, we had some engine problems. So we could not make enough laps for the Q3. I will do my best tomorrow. Thank you.”

「車の調子は朝からとても良かったのですが、予選は難しいコンディションでの走行となりました。さらに不運なことに、エンジントラブルにも見舞われてしまい、Q2 ではアタックできないまま敗退となってしまいました。明日は気持ちを切り替えて、レースでベストを尽くします」

伊沢 拓也 選手:

「朝のフリー走行からあまり速さがなく、残念ながら Q1 で敗退となってしまいました。明日は、天候も含め荒れたレースになると思いますので、何とかもう少しいいペースを見つけられるよう準備します」

<決勝レポート>

予報通りに決勝日も朝から雨に見舞われた岡山国際サーキット。雨は前日より段々と強くなる予報で、フリー走行前にスケジュールの変更とレース周回数が 54 周に変更となることが発表されました。

フリー走行では赤旗が提示されるクラッシュが発生し、スタート練習がキャンセルになりましたが、各車が走行を重ねて決勝に備えます。スケジュール変更により 10 分早く開始予定だった決勝は、雨が止む気配がなく、スケジュールディレイを繰り返す中、最終的には当初の予定から 50 分遅れの 14 時 55 分にセーフティーカーの先導で開始します。強い雨が降りしきる中、14 番グリッドのカーティケヤン選手はエンジンストールで最後尾に後退しますが、15 番グリッドの伊沢選手は 13 番手でセーフティーカーランを続けていきます。雨は依然として強く、7 周が経過すると赤旗が提示されレースは中断されます。しばらく待機状態になりますが、雨は小康状態になり 16 時 10 分に残り時間 51 分 23 秒でレースが再開されます。

引き続きセーフティーカーの先導で走行を続け、12 周目の終わりにセーフティーカーのライトが消え、いよいよレースが本格的にスタートします。雨が降り続くなか、伊沢選手は 14 周目でスピンを喫し最後尾に、これでカーティケヤン選手は 18 番手になります。20 周目でカーティケヤン選手は前走のマシンを果敢にパスし、17 番手に。22 周目で伊沢選手も前走のマシンを捕らえ 18 番手に。翌周、最終コーナーで 2 台が絡むアクシデントが発生し、セーフティーカーが導入されます。2 台はそれぞれポジションを上げて、カーティケヤン選手は 16 番手、伊沢選手は 17 番手に。27 周目でレースが再開され、前走の 1 台がピットインを行ったのと、スピンしたマシンがあり、さらに 2 つポジションを上げ、カーティケヤン選手は 14 番手、伊沢選手は 15 番手に。スピンした車両のため、再びセーフティーカーが導入され、そのままの状況でレース終了時刻を迎え、チェッカーを受けました。

なお、レース後にペナルティを宣告されたマシンがあり、それぞれ1つずつ順位を上げ、最終結果はカーティケヤン選手が 13 位、伊沢選手が 14 位となっています。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「予選から流れが掴めず、その状態を引きずり、厳しいレースとなってしまいました。悪天候のコンディションの中、たくさんのファンの皆様にご声援をいただき、たいへん感謝しています。次戦もよろしくお祈りします」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“Today’s weather condition was terrible. Actually, we could not see clearly anything so no one could overtake. We tried our best but there were some deep puddles on the track. Thank you.”

「悪天候でのレースとなってしまいました。視界が悪くオーバーテイクできませんでした。ベストは尽くしましたが、コース上に深い水たまりがあり、難しいレースでした。次戦に向けて気持ちを切り替えて挑みます。ありがとうございました」

伊沢 拓也 選手:

「難しいコンディションの週末でした。予選からの悪い流れを断ち切ることはできませんでしたが、決勝レース中のペースは今週のウェットの走りのなかでは一番調子よく走ることができたので、結果は出ませんでしたが収穫はあったと思います。残り 1 戦となってしまいました、いいレースができるように頑張ります」

以上

※次戦(最終戦)は 10 月 27 日～28 日に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で行われます。